

令和元年度 宇都宮市立岡本小学校学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標 人間尊重の精神に基づき、心身の発達に応じて、一人一人の特性や能力を生かし、知・徳・体の調和のとれた児童の育成をする。
- (2) 具体目標 自ら考え主体的に行動し、心豊かでたくましい児童の育成
かこく(進んで学ぶ子)、やさしく(思いやりのある子)、たくましく(元気でがんばる子)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

常に子供を中心に据え、子供の視点に立ち、どの子にも夢とやる気と自信を育む教育を実践するために、学校・家庭・地域が連携・協力し、子供一人一人の個性や能力を生かす活力あふれる学校、思いやりの心を持ち温かみと潤いのある学校、保護者・地域に開かれた信頼される学校となることを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図るため、分かる授業の実践や情報機器の活用に努めるとともに、多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う。
- (2) 互いを尊重し合う温かな人間関係のもと、認め励ます指導により、児童一人一人の自信や自己有用感を高め、自分のよさを生かしながら、他と協働する力を育む教育活動の充実を図る。
- (3) 運動を通じて体力を養うとともに、健康な生活習慣・望ましい食習慣・安全な生活を送るための資質・能力や、自ら考え行動できる力の育成に努める。
- (4) 特色ある学校づくりの推進や、体験活動・読書活動の充実を通して、社会性や豊かな心の育成、目標に向かって挑戦し続けるたくましさの涵養に努める。
- (5) 教職員としての高い指導力と専門性を身に付け、同僚性を発揮してチームで協力し合いながら指導にあたりとともに、業務の改善や勤務時間を意識した働き方を推進していく。
- (6) 積極的な情報の発信・提供により、家庭や地域とのつながりを深めながら教育活動を展開するとともに、学校経営の改善に努める。

[河内地域学校園教育ビジョン]すこやか河内ー小中一貫教育を通して、子供たちの心身のすこやかな成長を目指します。ー

4 教育課程編成の方針

社会の変化に対応するため、生涯にわたって成長し続ける基盤となる知・徳・体の調和のとれた力を、児童の発達段階や特性、地域の教育環境、保護者や地域の願いなどを踏まえつつ、各教科、特別の教科道徳、特別活動及び総合的な学習の時間、外国語活動等との関連を図りながら育成する。

- (1) 確かな学力を身に付けさせる方策として、聞く力トレーニングや視写を朝の学習に取り入れるとともに、第1学年の国語科に、多層指導モデルMIMを導入した授業を特設する。
- (2) 認め合い・励まし合い・協力し合える豊かな人間関係を、体験活動や新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践等を通して構築する。
- (3) 縦割り班活動やギネス活動等により、主体性や思いやりの心を育むとともに、心のたくましさ涵養する。
- (4) 魅力ある学校づくり地域協議会の意見や、学校マネジメントシステムによる教育活動の反省を次年度の学校運営に生かす。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】教職員それぞれが個性や能力を発揮し、同僚性を高めることのできる環境づくりに努めるとともに、目標の精選や焦点化を図り、勤務時間を意識した働き方を推進していく。
- 【学 習 指 導】○児童の学力の状況を把握し、特別支援教育や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等により、基礎・基本を確実に習得させ、読解力の育成に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。併せて、全教職員の共通理解のもと、保護者との連携による家庭学習の習慣化に努める。
- 【児童生徒指導】○認め励ます指導により自信や自己有用感を高め、道徳科(道徳の時間)や体験活動・読書活動の充実、家庭・地域と連携したあいさつや適切な言葉遣いの励行等を通して、生命や人権を尊重する思いやりの心を育み、いじめや不登校を生まない環境を作るとともに、折れない心や、やり抜く心など、心のたくましさの涵養に努める。
- 【健康(体力・保健・食・安全)】運動に親しもうとする態度や能力を育成するために、運動量を十分に確保した授業を心がけ、体力の向上を推進するとともに、健康な生活習慣や望ましい食習慣に対する理解を深め、改善を図ることができるよう養護教諭・学校栄養士・家庭と連携した取組を推進する。併せて、安全に関する理解を深め、危険を予測し、自らの命を守り抜くための行動力を身に付けられるよう警察等の関係機関とも連携し、指導の充実を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 →児童肯定回答 80%以上	①○指導目標を明確にし、「分かる授業」のために学習課題の提示方法を工夫したり、学び合い活動の場を意図的に取り入れたりする。 ②○児童一人一人の定着度を把握し、よさを認めた言葉かけやつまずきに応じた一人一人への支援をする。 ③○授業中に話合いの場を意図的に設定し、理由などを含めて発表できるように、発達の段階に応じて適切に指導する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.7%で、目標値を大きく上回った。 ① 学校課題の解決に向けて協働体制で取り組んだ。めあてや振り返りの掲示物を作って一連の授業の流れを共通理解した。また全員で授業を公開し合い、よりよい授業を目指して協議を行った。 ② 教師の見取りや自己評価、ノートの確認、小テストなどから形成的評価を行い、一人一人の定着度の把握に努めた。また、学習の成果に対して賞賛したり、児童の実態に応じた課題を与えたりして支援を行った。 ③ 授業中に話合い活動を設定し、理由などを含めて発表できるように、発達の段階に応じて指導した。 【次年度の方針】 ・ 協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。今年度の掲示物を活用して、児童の次時への意欲に繋げられるようにしたい。 ・ 様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ・ 理由などを含めて発表できるように、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定回答 90%以上	① 道徳科において、考え議論する授業展開を図る。 ② 縦割り班活動や教科等における異年齢児童との活動の機会の設定、地域の方々との交流などにより、学年学級・学校を越えた人とのかかわりを深める。 ③○相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努める。 ④○地域学校園で取り組む読書郵便、読書イベントや読み聞かせの実施など、学校図書館を核とした読書活動を推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.6%で、目標値をやや下回った。 ① 道徳科では、考え議論する授業の展開を図り、ノートを活用して一人一人の成長を振り返るようにした。 ② 縦割り班活動を中心に異年齢交流に取り組むことができた。 ③ 一人一人の児童に深く関わり機会をとらえて指導することができた。 ④ 学級図書の実践や読書郵便など、学校図書館を核とした読書活動を推進した。 【次年度の方針】 ○ 道徳科において、考え議論する授業展開を図るとともに、学級学年を越えた人とのかかわりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。

		○ 学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「きまりやマナーを守って生活している」 →児童肯定回答 85%以上	① 集団と個の両面から一人一人の児童の特性を適切に把握し、ふれあいとルールを大切に学級づくりに努める。 ② 「岡本小のよい子の約束」「岡本小のめあて」「岡本小学校生活のきまり」の指導の充実とともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。 ③ 児童指導だよりでの啓発により、保護者との連携・協力を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 84.6%で、目標値をやや下回った。 ① 学級活動や道徳の時間を活用し、児童のよいところを認めながら、ふれあいとルールを大切に学級づくりに努めた。 ② 「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」を各教室に掲示し意識させるとともに、月ごとの児童指導の重点をもとに各学級を中心に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・ 集団と個の両面から一人一人の児童の特性を適切に把握し、ふれあいとルールを大切に学級づくりに努める。 ○ 「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」の指導の充実とともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「時と場に応じたあいさつをしている」 →保護者肯定回答 75%以上	① ○毎月のあいさつ運動を継続実施することや日常の指導を通して、あいさつの定着を推進する。 ② ○学級活動や道徳の時間において、あいさつの大切さについて指導し、適切な態度が習慣化できるよう指導を継続する。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 78.8%で目標値を上回った。 ① 運営委員会の児童を中心にあいさつ運動に取り組み、あいさつの定着を図った。 ② 学級活動や道徳の時間を中心に、あいさつの大切さや適切な態度が習慣化できるよう指導した。 【次年度の方針】 ○ あいさつ運動の継続実施や学級活動等の指導を通して、あいさつの定着及び適切な態度が習慣化できるよう取り組む。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定回答 80%以上	① 持久走大会やギネス活動等の学校行事、日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努める。 ② 「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.4%で目標値を上回った。 ① 持久走大会やギネス活動等の学校行事、日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努め、粘り強く取り組む姿勢が育った。 ② 「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進した。 【次年度の方針】 ・ 学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。
A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「健康や安全に気を付けて	① 業間や昼休みは外に出て遊ぶことを推奨するとともに、各種検定カードを有効活用し、進んで運動する機会を増やしていく。また、元気っ子健康体力チェックやミニマムの結果を	B 【達成状況】 児童肯定割合は93.2%で、目標値を大きく上回った。 ① 各種検定カードの活用により児童は積極的に運動に親しんだ。

生活している」 →児童肯定回答 85%以上	分析し、体育の授業の中に児童の実態に合った運動を位置付けることに努める。 ② 健康の保持増進が図られるよう、毎日の指導に取り組むとともに、保健だよりや食育だより等により啓発し、家庭との連携を図る。 ③ 避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなどして、体験活動を通した安全教育を推進する。	② 歯科検診の結果やその後の処置の様子をもとに、夏休み前の歯みがきカレンダーを個別に配付することにより、齲歯の予防・治療等の意識を高めることができた。 ③ 事前告知無しの避難訓練を実施し、事後の振り返りを確実に行うことで、児童の安全に対する意識を高めることができた。 【次年度の方針】 今年度の取組を引き続き継続し、内容の工夫改善を図る。
A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定回答 80%以上	① ○地域学校園クリーン活動や親子奉仕活動など、集団や地域のために働く機会を設定するとともに、学校農園活動や校外学習等により、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動に取り組む。 ② 地域のイベント等の情報を収集し、学校だよりに掲載することにより、児童の地域活動を促進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.4%で目標値を上回った。 ① 学級での係活動や当番活動、委員会活動を通して働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動に意欲的に取り組ませることができた。 ② 各自治会の協力により地域情報を学校だよりに掲載することができた。 【次年度の方針】 ○ 集団や地域のために働く機会を設定するとともに、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動に取り組む。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 →児童肯定回答 80%以上	① 教員が英語を使うとともにALTを活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ② ALTとの交流給食など、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.7%で目標値を大きく上回った。 ①②ALT と密に打ち合わせを行い、ALT とのやり取りの中で、身に付けるべきキーセンテンスに慣れ親しませることができた。 【次年度の方針】 今後も外国語活動の時間だけでなく、日常的に英語に触れる機会をもたせることで、コミュニケーションの素地を養えるようにする。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「宇都宮の良さを知っている」 →児童肯定回答 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間において、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開する。 ② 地域の情報を収集し、学校だよりに掲載することにより、地域の良さを実感できるよう児童や保護者の地域活動を促進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 79.3%で目標値をやや下回った。 ①②各教科等を通して、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開することができた。 【次年度の方針】 来年度から使用する市作成教材を活用し、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう授業を展開する。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」 →児童肯定回答 80%以上	① 情報教育担当や司書が学級担任と連携し、コンピュータ及びタブレット、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ② 読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより学校図書館を核とした読書活動を推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 85%で目標値を上回った。 ①②③ 調べ学習の際に、ICT や図書等を積極的に活用し、収集した情報を学習に活用することができた。 【次年度の方針】 ICT や図書資料を意図的に取り入れ、分

		③ ICT 機器や図書室の資料を活用した調べ学習の充実を図る。		かりやすい授業の展開を心がける。さらに、個に応じた学習を充実させるために学習ソフトを活用する。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定回答 90%以上	① 道徳科において、考え議論する授業展開を図る。 ② 地域の高齢者との交流などにより、学年学級・学校を越えた人とのかかわりを深める。 ③ ○相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.6%で目標値をやや下回った。 ① 道徳科において、考え議論する授業を図り、思いやりの心を耕すことができた。 ② 1 年生は昔遊びや川遊びなどを通して地域の高齢者と交流し、学校を越えた人とのかかわりを深めたが、実施学年に偏りがあった。 ③ 相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努めた。 【次年度の方針】 ○ 地域の高齢者との交流などにより、地域の人とのかかわりを深め、相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努める。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 →児童肯定回答 80%以上	① 学校農園活動や花いっぱい運動など、自然の大切さを実感させる教育活動に取り組む。 ② 地域学校園クリーン活動や親子奉仕活動、給食ごみのリサイクルなど、学校内外の環境維持を意識させる教育活動に取り組む。 ③ 避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなどして、体験活動を通じた安全教育を推進する。また、様々な災害における避難方法などの詳細を保護者へ周知し、連携を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.2%で、目標値を上回った。 ①②③生活科での農園活動や花いっぱい活動、クリーン活動など、環境に目を向けた活動を取り入れた。また、各避難訓練や交通安全教室等の体験活動も十分実施した。 【次年度の方針】 ・ 今後も活動の内容や方法の工夫を継続し、学校内外の環境維持や安全を意識させる活動を実施する。
目 指 す	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 →教職員肯定回答 80%以上	① 教育支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図る。 ② 教育支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、95.2%で目標値を大きく上回った。 ①②組織的な対応により、個に応じた指導に努めるとともに保護者との情報共有に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・ 次年度もきめ細やかな指導を行い、さらに一人一人に応じた教育を充実させていく。
学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 →保護者肯定回答 75%以上	① いじめに関するアンケートや教育相談、いじめゼロ集会を実施し、普段から安心して相談できる教職員と児童との関係づくりに努め、早期発見・対応を図る。 ② ○道徳科の授業公開や人権週間の設定、いじめゼロ強調月間による啓発などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 81.0%で目標値を上回った。 ① 年2回いじめに関するアンケートと教育相談を実施し、細かな実態把握に基づく具体的な対応や未然防止に努めた。 ② いじめゼロ強調月間におけるいじめゼロ集会の実施や道徳科との連携によりいじめを許さない意識が高めた。 【次年度の方針】 ○ 安心して相談できる教職員と児童との関係づくりに努め、早期発見・対応を図

			るとともに、様々な啓発及び指導などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童(生徒)がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」→児童肯定回答 80%以上	① 学習指導や特別活動をととして自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童の良さをいかす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 ② 「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。 ③ SCM及び不登校対策担当を核として組織的に支援策を検討し、保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.1%で目標値を大きく上回った。 ① 学習指導や特別活動をととした自己肯定感を高める取り組みや、児童の良さをいかす教育環境を整え、不登校を未然に努めた。 ② 「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進した。 ③ 組織的に支援策を検討し、保護者との連携や別室登校支援などに取り組むことができた。 【次年度の方針】 - 児童の良さや努力などを認め励ます教育の推進による自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさを生かす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 - 保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」→教職員肯定回答 80%以上	① 教育支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図り、通訳者派遣や翻訳文書の配付など行政支援の要望を検討する。 ② 教育支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、95.2%で目標値を大きく上回った。 ① 配付文書にルビを振るなど、保護者への情報提供に配慮した。 【次年度の方針】 個別の実態に応じて対応、検討していく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は今の学校が好きです」→児童肯定回答 90%以上	① 体験的な活動を取り入れたり、教育機器等を有効に活用したりして、児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。 ② 学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場面を設定し、教師が適切な指導・支援・助言をする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.2%で、目標値をやや下回った。 ① 教育機器やデジタル教科書などを積極的に活用したり、体験的な活動を多く取り入れたりして、児童が興味・関心をもって取り組むことができるような授業の展開に努めた。 ② 学校行事ごとに、児童が具体的な自分のめあてを明確にして自主的に取り組めるよう、計画段階から適切な指導、支援がなされるように立案し、全教職員が共通理解のもと実施した。 【次年度の方針】 今後も継続して、効果的な教育機器の活用や体験的な活動に取り組み、児童の学習意欲を高めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向	① 読解力の向上等を目指し、教材研究を十分に行い、明確な課題提示と、振り返りや発問、学び合いや活	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.2%で、目標値を上回った。

	上を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」 →教職員肯定回答 90%以上	動により、分かる授業を展開する。 ② 児童の実態に応じたきめ細かな指導をするために、単元や学習内容に応じて次に記した学習方法及び形態の工夫をする。 ・ 少人数やT.Tでの指導 ・ かがやきルームの活用 ・ 多層指導モデルMIM ・ 朝の学習の時間の充実	① 学年やブロックで連携してICT教材を活用したり、よりよい授業が展開できるよう教材研究に努めたりした。 ② 児童の実態把握にもとづき、学力向上担当やかがやきルーム指導員と連携しながら、個に応じた指導ができた。 【次年度の方針】 ・ 教材研究や授業準備がより効率的・効果的に行えるよう計画・実施するとともに、少人数指導や習熟度別学習、T.Tによる指導を適宜取り入れ、学力向上を図る。
A19	学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 →教職員肯定回答 80%以上	① 学校行事等において役割を分担するなどして、同僚性を発揮して取り組む業務を設定する。 ② ミライム掲示板及びホワイトボードの活用や勤務時間内に打合せ時間を確保するなど、共通理解を図ることができる勤務環境を整える。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は90.5%であり、目標値を大きく上回った。 ① 教育活動全般において、教員と関係する学校スタッフが事前の打合せも含めて協働の意識で業務にあたった。 ② ミライム掲示板の活用等により、情報共有が図られた。 【次年度の方針】 ・ 項目の取組内容がA20と重複するため、次年度は改善する。
A20	学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】出退勤記録 12月までの全教職員残業時間平均→月45時間未満	① 学校行事や教育活動を、年度内に見直すなどして、効率化につながる改善に取り組む。 ② ポータルを活用した電子データの管理を推進し、事務の効率化及び取組の継続性を図る。 ③ インターネットバンキング等を活用して、出納業務の効率化を図る。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は81.0%と本校昨年度や本市を上回っており、残業時間の平均も27時間32分と目標値を達成した。 ① ねらいの再確認や、業務の効率化にもつながるような改善に向かって取り組んでいる。 ②③ポータルやインターネットバンキングの活用により、連絡事項浸透や会計事務効率化が図れてきた。 【次年度の方針】 ・ 大きく見直した各種の行事や計画を、課題と成果を明らかにして改善させるようカリキュラムマネジメントを推進する。 ・ ミライムやポータルなどをより活用したペーパーレス化や効率化の共通理解を推進し、事務等の一層の効率化を図る。
A21	学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」 →保護者肯定回答 85%以上	①〇地域学校園研修や各部会・教科部会等を定期的実施し、計画的に推進する。 ②〇「小中一貫教育だより」や「学校だより」等による情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答が87.3%と目標値を上回った。 ① 地域学校園としての取り組みを円滑に実践することができた。 ② 教職員と地域、児童の肯定的割合は90%を上回っているが、やや保護者の値が低めであった。特に、古里中学校行事等の情報提供が少ないとの声が複数あった。 【次年度の方針】 ・ 学校園のコンセプト見直しに伴い、より実践的な取り組みに繋がるよう連携を深めていく。

			・学校だより等の各種便りや HP を活用してより一層の保護者への啓発活動及び情報提供を広げていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→保護者肯定回答 80%以上	① 街の先生及び学校支援ボランティアと連携した授業や活動を計画的に実施する。 ② 昨年度の取組・課題を生かし、岡本小地域協議会を核にした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努め、学校運営の充実を図る。 ③ 学校だよりにより教育活動や協力依頼等を掲載することにより、学校教育への理解促進や連携体制づくりに取り組む。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 90.0%と目標値を大きく上回った。 ① 街の先生・学校支援ボランティアと連携した学習や活動を計画的に実践した。 ② 「岡本小地域協議会」を年3回開催し、情報共有・協働に努めた。 【次年度の方針】 ・昨年度の取組・課題を生かし、岡本小地域協議会を核にした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努め、街の先生及び学校支援ボランティアと連携した授業や活動を、教育課程に位置付けて実践する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→地域肯定回答 80%以上	① 街の先生及び学校支援ボランティアと連携した授業や活動を計画的に実施する。 ② 地域のイベント等の情報を収集し、学校だよりにより掲載することにより、児童や保護者の地域交流を促進する。	B	【達成状況】 地域の肯定的回答は 93.3%であり、目標値を大きく上回った。 ① 街の先生・学校支援ボランティアと連携した学習や活動を計画的に実践した。 ② 地域行事の情報提供に努めた。 【次年度の方針】 ・校外学習計画見直しに伴い、街の先生及び学校支援ボランティアと連携した授業や活動の見直しをしながら実践する。 ・地域協議会便り等の各種便りや HP を活用してより一層地域や保護者への啓発活動を広げていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」→保護者肯定回答 80%以上	① 保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、AED講習の案内など、危機対応に関する情報を提供する。 ② 全教職員による毎月の安全点検を行い、児童や利用者が安全に活動できる環境づくりに取り組む。	B	【達成状況】 保護者肯定的割合 89.9%であり、大きく目標値を上回った。 ② 安全点検結果に対して、学校業務嘱託員や機動班と連携しながら速やかに対処することで、安全な環境づくりに努めることができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を引き続き継続し、内容の工夫改善を図る。さらに、AED 講習会案内の配布対象者を広げ、より多くの参加者を募るなどして、ハード面のみならず、ソフト面での危機対応力向上を図る。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」→児童肯定回答 90%以上	① 情報教育担当や司書が学級担任と連携し、コンピュータ及びタブレット、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ② 読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③ ICT 機器や図書室の資料を活用した調べ学習の充実を図る。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.2%で目標値を上回った。 ③ 調べ学習の際に、ICT や図書等を積極的に活用し、収集した情報を学習に活用することができた。 【次年度の方針】 ・学習に ICT や図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに、個に応じた学習を充実させるために学習ソフトを活用する。

本校の特色・課題等	B1 ギネス活動を通して、児童の積極性を育てる。 【数値指標】全体アンケート「ギネス活動で、積極的に活動できた」(1～4年)「ギネス活動で責任をもって自分の係の仕事を行うことができた」(5・6年)→児童肯定回答 85%以上	① 岡本挑戦ギネス活動を、本校の実態に応じて改善・充実させ、学校及び学年学級の活性化を図る。 ② 児童会活動として運営に参画させ、高学年がリーダーとして活動できるよう指導する。 ・なんでもチャレンジ(学級または学年単位) ・長縄チャレンジ(学級)	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.5%で目標値を上回った。 ① 学級や学年単位で種目設定や練習を行うことで、学校及び、学年学級が活性化された。 ② 運営委員会の児童を中心に運営に参画し、積極性・協調性が高まった。 【次年度の方針】 ・岡本挑戦ギネス活動を、本校の実態に応じて改善・充実させ、学校及び学年学級の活性化や、高学年がリーダーとして活動できる指導に努める。
-----------	---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

全体アンケートの9割近い質問において、肯定的回答割合が市平均値より高い状況にある。また、学校評価書に設定した評価項目26のうち22項目で評価指標の目標値を達成しており、目標値を下回った項目でも、それぞれ0.4～0.7ポイント程度下回っている状況である。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】

□学習指導や体力に関する評価項目については、ほとんどが目標値を達成している。特に、A1「進んで学習に取り組む」、A6「健康安全な生活」、A8「英語コミュニケーション」のポイントが目標値より10ポイント近く高く、児童が意欲をもって日々の学習及び健康安全な生活に取り組んでいる状況である。

- ・今年度新規に設定されたA9「宇都宮の良さ」については79.3%であり、ほぼ目標値80%程度であるが、すべての調査対象の結果が市平均に比べ低いとともに自由記述欄には地域人材の活用充実が記載されていた。今後は、市作成の教材や校外学習の機会を活用するなどして、児童が自分の住む地域への理解や愛着が深まるよう努めていく。

- ・A10、25「ICT 機器や図書等の活用」については、目標値を達成しているが、新学習指導要領の実施にともなうプログラミング教育推進や市の重点施策学校図書館の充実を踏まえ、これらを計画的に授業へ取り入れ分かる授業の展開を図るとともに、学習ソフトの活用により個に応じた指導を充実させる。

□児童指導に関する評価項目については、特にA5「粘り強い取組」、A7「社会貢献」のポイントが目標値より10ポイント以上高く、児童が社会や将来を意識した目標に向かって努力している状況にある。

- ・A3「児童がきまりやマナー遵守」については84.6%であり、ほぼ目標値85.0%程度であるが、昨年度より5ポイント下がるとともに市平均より1.5ポイント低い。今年度後半に全教職員で生活のきまりの見直しや、時間を意識して生活させるためにチャイムの回数を増やすなどの改善に取り組み始めたことから、次年度も組織的な指導に努めていく。

【目指す学校の姿（評価項目：A13～25）】

□ほとんどの評価項目において目標値を達成している。特に、A13「特別支援」、A15「不登校を生まない学級づくり」のポイントが目標値より15ポイント以上高く、教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に取り組み、児童が互いに認め合う学級づくりに努めている状況である。

- ・A20「業務の効率化」については目標値を達成しているが、次年度の各種教育活動等を大きく精選したことから、実施後の成果と課題を明確にしてカリキュラムマネジメントを推進するとともに、業務効率化の共通理解を十分図っていく。

- ・A21「小中一貫教育」については目標値を達成しているが、自由記述欄に、古里中学校の情報が不足していることや進学先が分かれることの不安などが記載されていた。次年度に向けて、河内中学校に加えて古里中学校とも行事調整を始めたことから、今後は古里中学校の各種情報も可能な範囲で提供できるよう努めていく。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1）】

- ・本校の特色であるB1「ギネス活動」は、9割以上の児童が積極的に活動できたと回答している。今後とも、本活動の成果と課題を整理し、本校の特色ある活動として継続するために改善を図っていく。

7 学校関係者評価

【児童のきまりやマナーについて】

- ・児童は、登下校や地域の生活において元気にあいさつや返事をしており、今後はさらに、地域においてもコミュニケーションを図る活動などの充実に努め、児童や保護者、地域住民の関係づくりに努めていきたい。
- ・一部に朝食を毎日摂っていない児童や、道具の扱い方が荒く忘れ物を取りに来ない様子が見られるなど、家庭における生活の基本的な教育が不十分であることが伺える。
- ・校内で時間を守ることや廊下を走らないことなどについては、昔から続く課題である。

【児童の宇都宮の良さ理解について】

- ・地域としてもふれあい活動等を充実させ、児童に岡本地区の良さを実感させることに努めていきたい。特に、親が子供へ地域や市、県の良さを伝えていけると、地域理解や愛着が育まれる。

【その他】

- ・改訂されたアンケート質問の内容が分かり難いため、肯定的な回答割合が低い項目があるのではないかな。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

- 新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点から、ICT 機器や図書等の活用等を計画的・効果的に授業へ取り入れるなどして授業改善を図り、分かる授業を一層展開することにより学力向上を図る。
- 時間を意識して生活させる取組や学校生活のきまりなどを組織的に指導し、きまりやマナーを遵守する態度を育成する。
- 児童が進んで運動する機会の充実や齲歯の予防・治療意識を高める取組を継続するなどして、健康体力の保持増進を図る。また、体験活動を通じた安全教育を推進し、安全に対する意識を高める。
- ・市作成の教材や校外学習の機会を活用するなどして、児童が自分の住む地域への理解や愛着が深まるよう努めていく。

【目指す学校の姿】

- ・大きく精選した各種教育活動等の成果と課題を明確にするなどして、カリキュラムマネジメントを推進するとともに、業務効率化の共通理解を十分図るなどして、新学習指導要領に基づく学校運営及び教育活動を円滑に実施する。
- 教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に取り組み、児童の自己有用感を高め、児童が互いに認め合い、高め合う学級づくりに努める。
- ・本校の特色である「ギネス活動」は、今後とも特色ある活動として継続するために改善を図っていく。
- ・岡本小地域協議会を要として、街の先生や学校支援ボランティア等の協力による教育活動支援の円滑な実施に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。
- 河内地域学校園における連携協力を図るとともに、古里中学校との行事調整等にも取り組み、今後は古里中学校の各種情報も可能な範囲で保護者へ提供できるよう努めていく。